

## 作況 100、主食 670 万トﾝ確定 来年 6 月末在庫 190 万トﾝ台に改善

令和4/5年需給見通しと  
5年産の生産目安(万トﾝ)

4年6月末民間在庫量	218
4年産主食用米等生産量(確定値)	670
4/5年主食用米等供給量計	888
4/5年主食用米等需給量	691~697
5年6月末民間在庫量	191~197
5年産主食用米等生産量(目安)	669

農水省は9日、令和4年産水稻収穫量等の確定値を発表した。最終作柄は全国作況指数 100 の「平年並み」で、主食用収穫量は前年比 30 万 6000 トﾝ減(前回比 1000 トﾝの微減)の 670 万 1000 トﾝ。4 年産目安 675 万トﾝより約 5 万トﾝ少ない生産抑制を達成したことになる。

来年 6 月末民間在庫量見通しは 191~197 万トﾝ。需給均衡水準 190 万トﾝ台への在庫縮減でコメ需給改善が見込まれる。なお 5 年産目安 669 万トﾝは、4 年産収穫量実績 670 万トﾝとほぼ同じになる。

10 トﾝ収量の全国確定値をみると、作況指数の基準となる農家ふるい目幅収量(都道府県別に 1.90~1.80 トﾝ基準)は前回比 1 トﾝ増の 512 トﾝ(前年差 3 トﾝ減)に上方修正され、平年収量 512 トﾝと全く同じで「作況指数ジャスト 100」に。逆に収穫量の基準となる 1.70 トﾝ収量は前回比 1 トﾝ減の 536 トﾝ(前年差 3 トﾝ減)に下方修正され、こちらも平年収量と同収量の 536 トﾝ(1.70 トﾝ作況でも 100)で確定した。

農業地域別の最終作柄は、▷北海道 106▷東北 98▷北陸 100▷関東・東山 99▷東海 101▷近畿 102▷中国 101▷四国 103▷九州 98▷沖縄 101。前回比では東海が 1 ポイント上昇したほか、沖縄は 2 期作が豊作となった関係で 5 ポイント上昇し、不作から平年作に持ち直した。東北・九州の作況 98「やや不良」や北海道 106「良」、西の近畿・四国の「やや良」豊作などは前回と同じで、作況指数の下振れはなかった。

都道府県別の作況変動は沖縄だった。ただし群馬と岡山で 1.70 トﾝ収量が 1~2 トﾝ減少し、両県の収穫量が前回比微減に。農家ふるい目幅収量は岐阜と大分で 1 トﾝ増加した。沖縄は両収量とも 16 トﾝ増加した。

主食用作付面積は 125 万 1000 ㌦で変わらず。作況 100 でも全国収穫量が 31 万トﾝの大きな減産となったのは、主食用作付削減が全国 5 万 2000 ㌦に達したため。とくに北・東日本の主食用削

減が大きく、北海道、東北、北陸、関東・東山だけで全国削減面積の 7 割、収穫量ベースでも 3 分の 2 を占める。

農水省が主食用に絞って作付・収穫量の統計を取り始めた平成 20 年産以降で見ると、全国減産量 31 万トンは、米価上昇の 27 年産（44 万トン）、前年の豊作 102 から不作 98 に大きく低下した 21 年産（35 万トン）に次いで 3 番目に大きい水準となる。

ただし需給改善が進む中、4 年産 670 万トンとは別に、全農持越在庫だけで 3 年産調整保管米約 40 万トン（周年事業対象米穀）が控える現実がある。需給環境悪化を防ぐため販売支援は来年 10 月末まで延長されるものの、今年 11 月以降は販売期間に入り、少しずつ市場に染み出してくることは確か。主食用削減や大産地・東北の 18 年ぶり不作などを反映した新米不足ムードと、余剰を含む 1 年古米 40 万トンの長期計画販売との兼ね合いが全体需給の焦点になる。